

教科実践レポート

1年生 国語

結論に説得力をもたせるための筆者の工夫について考えよう。(「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ)

授業者：有田 美由紀

《研究実践のポイント》

- ★対話や議論を生む課題設定の工夫
- ★自分で考え、他者と共有し、再考することで、自分の考えの変容を自覚する取組
- ★振り返りの活用

1. 単元ゴールの設定

本単元では、小学校第5学年及び第6学年の「論の進め方について考える」こと、「表現の効果を考える」ことをうけ、「文章の構成や展開、表現の効果を考える」ことに重点を置いた。そのため、結論となる筆者の主張に説得力をもたせるために、筆者がどのような工夫をしているのか、またその効果について考えさせることにした。

単元ゴール

○結論に説得力をもたせるための筆者の工夫について自分の考えをもとう。

2. 単元計画

指導事項

- ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。
- ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。

言語活動

- ・文章の構成や展開の効果を考え、考えたことを文章にまとめる。

(1) 文章を五つに分け、筆者が立てた仮説を捉える。

文章全体の構造を理解させるために、本文を役割によって、五つの部分に分けさせた。五つに分けさせる際には、なぜその部分で分けたかの理由を考えさせ、グループで共有させた。また、筆者がどのような事実をもとに仮説を立てたか捉えさせた。授業の最後に、仮説に対してどのような結論になったかを確認し、「結論に説得力をもたせるための筆者の工夫について考える」という単元ゴールを提示し、単元全体の見通しをもたせた。

振り返りには、常に単元ゴールについて1時

間のなかで考えたことを書かせるようにし、生徒の実態の把握と生徒自身が自分の考えの変容を自覚できるようにした。

学習の見通しと単元ゴールを共有しておくことで、毎時間何を考えながら学習を進めなければならないかということを明確にし、主体的に学習に向かわせるようにした。

振り返り

文章を五つに分けるとときには、「では」「そこで」などの言葉に注目すると良い。説得力を持たせる工夫は実験の方法や結果を図やグラフ、絵などを使って書いているところだと思いました。

※図表など視覚的なわかりやすさに着目しているが、効果までは考えられていない。

(2) 二つの検証内容を読み取り、五つの観点で表に整理する。

仮説の検証1・2について五つの観点で内容を読み取り、表にまとめさせることで、論の展開の仕方について捉えさせた。

- 〈観点〉①検証の目的 ②検証の方法 ③結果
④考察・解釈 ⑤問題点

振り返り

・検証内容を読み取るときに、考察は「つまり」や「～考えられます」などで、結果は「～結果となった」「～分かりました」などの文末表現に注目しました。

※文末表現の違いによって、事実と考えの見分けができることに気がついている。

・立証するための工夫は、立証したいヘビに対する「ジャージャー」と、ネコやカラスに対する「ピーツピ」の2種類の鳴き声を使っている。

※論の展開に着目できているが、効果については考えられていない。

(3) 結論に説得力をもたせるための筆者の工夫についてグループで考え、発表する。

これまでの授業で考えてきた結論に説得力をもたせるための筆者の工夫について、班で交流し発表させた。論の進め方や実験の仕方、表現の工夫といったことだけでなく、その工



夫があることによって、なぜ説得力が増すのかその効果についても考えるようにさせた。次時（単元ゴール）で自分の考えをもたせることを示し、グループの発表を聞きながら、自分の考えと比べたり、加えられる説明についてメモさせたりしながら発表を聞かせるようにした。友達の考えでなるほどと思う根拠はメモさせ、疑問に思うことは質問しながら活動させた。

振り返り

・説得力をもたせるための工夫は、図やグラフの使用（図を使うことで、実験をイメージしやすくなる、グラフで数値を使うことで分かりやすくなる。）と比較（色々な鳴き声で実験することで結果が確かになる）だと思いました。

・次の時間では、比較することにより、実験から出た疑問が解消され、調べたいことが確かなものになり、それが筆者の説得力をもたせるための工夫になっているということを書きたいです。

※筆者の工夫とその効果まで考えることができています。

・筆者の工夫を書くときには、「結果をより確かなものにする」や「可能性をなくしていく」「～することによって～になっているから」という表現を使って書いていきたい。

※友達の表現の仕方を自分の表現に生かそうとしている。

・自分だけで考えたときは意見が出せなかったけど、○さんと△さんの説明を聞いて、少し意見をもつことができた。

・自分だけだったら、ただ工夫されているところを抜き出すくらいしか分からなかったけど、グループで考えたことによって、そこからどのように説得力をもたしているのかかまで考えることができた。

・他のグループの発表で⑩段落のことを私は全然気にとめていなかったの、筆者の工夫が増えたので良かったです。

※交流することで自分の意見が広がっていることを自覚できている。

(4) 結論に説得力をもたせるための筆者の工夫について自分の考えをまとめ、交流する。

前時のグループの発表を受け、結論に説得力をもたせるための筆者の工夫について、自分の考えをまとめさせる活動を行った。

前時までグループ内での交流や他グループの発表をメモしてきたことや、毎時間、単元ゴールを見据えて振り返りを書いてきていたので、毎時間の振り返りやメモを見ながら、20分程度

で単元の振り返りを書くことができた。その後の交流では、班で交流したあと、自由に交流させた。友達がどんな考えをもっているのかメモを取りながら聞く姿が見られた。

3. 単元を終えて

成果

○単元の導入で生徒に学習の見通しや単元ゴールのイメージをもたせる。

○毎時間の振り返りで単元ゴールについての振り返りを書かせる。



☆毎時間の積み重ねが最後の単元の振り返りにつながっていることを意識させることができた。
☆毎時間の振り返りのなかで、生徒がどのように捉え、考えているかを把握し、次時の導入や授業展開を考える際に活用することができた。

○班のなかで自分の考えを交流し、その後、他の班とも交流する。



☆支援が必要な生徒も何を書けばよいのかというイメージをもつことができた。

○自分の考えをもち、友達と交流する。



☆自分にない意見や友達の表現を取り入れ、さらに良い文章にしようとする姿が見られた。



今後の取組

主体的・対話的で深い学びをめざすために、課題について、まず自分で考え、他者と共有し、再考していくという過程を大切にしていきたい。他者と共有する際には、自分の考えと比べさせ、新たな気づきを得られるように支援し、他者と交流することで考えが深まることを生徒に感じさせる授業を行っていきたい。